

日々水揚げ数量が価格変動に及ぼす影響

福島県水産試験場漁場環境部
平成17年福島県水産試験場事業報告書

1 部門名 水産業一利用加工一市場・流通

分類コード 19-03-15000000

2 担当者 岩上哲也

3 要旨

漁業者は多様な資源を対象に様々な漁法を行うが、漁期と天候の関係から、集中的な水揚となりがちで、価格形成（経営維持）に大きな影響を及ぼしている。価格は資源管理を進める上の大きな駆動力であり、その安定及び適正な価格形成が望まれていることから、相馬原釜魚市場の日々水揚げ資料を用いて、次の3項目を解析し、対策を検討した。

- (1) 水揚の主体である沖底水揚げ数量が、同一資源を対象とする刺網価格に及ぼす影響。
- (2) 沖底の水揚げ日は、月・水・金曜日が基本形になっているが、均等水揚は不利なのか。
- (3) 刺網水揚にみられる休市・出船自由の翌日に起こる2日分の水揚げ量の影響。

その結果、

○月・水・金曜日は、沖底水揚により市場水揚げ数量は増加するが、曜日別の刺網平均価格の分布に違いはみられず、価格への影響はないと思われる。

○金曜日は沖底全船入港日のため、市場水揚げ数量は増加するが、翌日が休市の影響もあるためか、平均価格は高値を示す場合もあり、数量増加の影響はないと思われた。

○刺網マガレイは、水揚げ量が少なく、小型魚も少ないと思われた平成14、15年は、集中水揚が続くと価格を下げ、水揚が少なくても価格相場が復活しないといった価格低迷を継続する傾向が見られた。

また小型魚が多獲されたとみられる平成16年は、安値魚の増大に影響を受け、高値が出ない傾向が窺われた。マガレイの集中水揚、小型魚や安値魚水揚げ増大は相場形成に悪影響を与えることから、資源の有効利用、価格維持には、間引き出荷、用途別出荷、小型魚水揚げ制限などの対策を考えるべきである。

4 その他の資料など

- (1) 福水試資料No.309「多面的な資源管理型漁業の推進報告書」